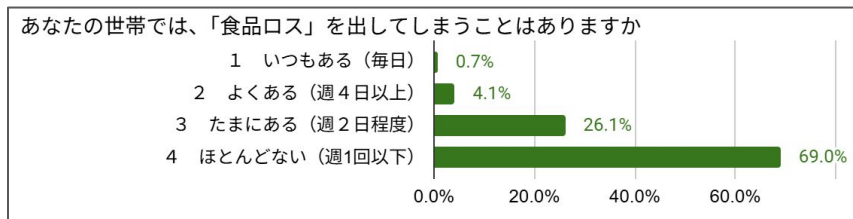
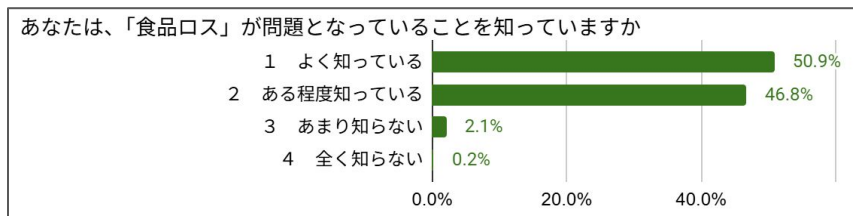


令和8年度「生ごみ減量・資源化に関する関心度・実践度等調査業務」結果概要（総回答数849人）

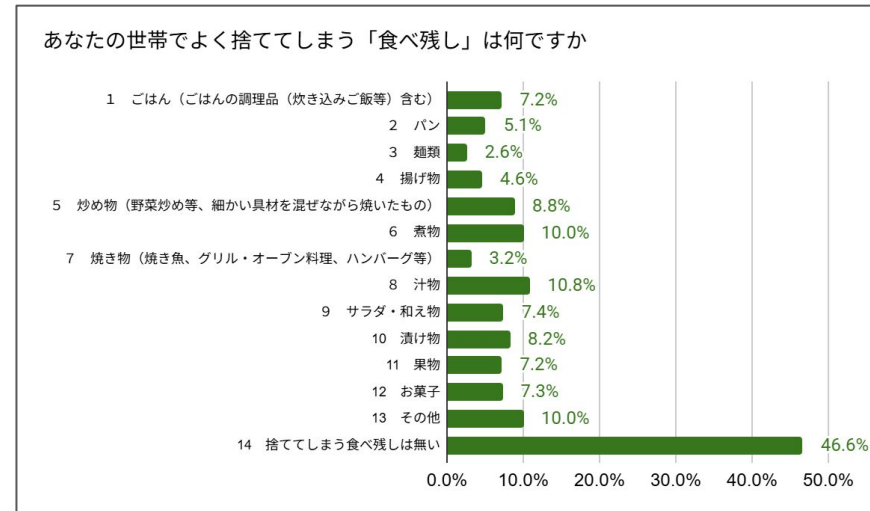
◇「Ⅰ 食品ロスについて」－①

【食ロス問題の認知度と発生頻度】



- ・食品ロス問題について「よく知っている」「ある程度知っている」は計98%に達する。
- ・一方、約3割の人が週2日以上、食品ロスを出してしまうとの回答であった。

【食べ残しの廃棄】

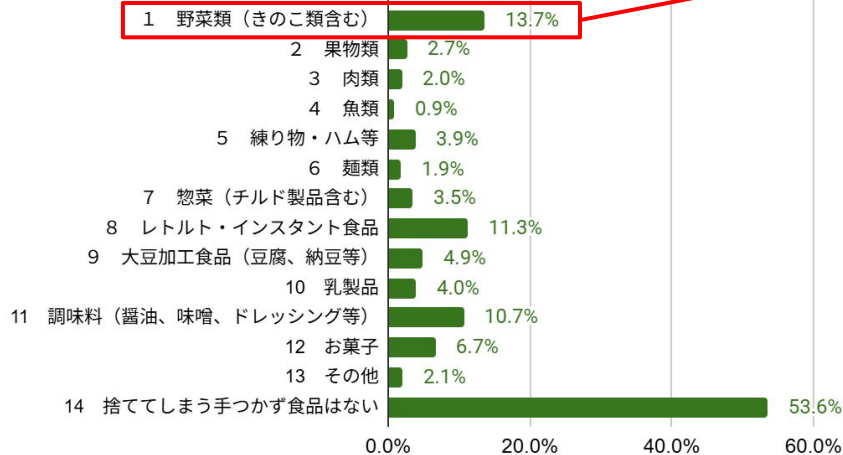


- ・廃棄率が突出して高いものではなく、約半数が「捨ててしまう食べ残しはない」との回答となった。
- ・令和6年度「生ごみ減量・資源化に関する関心度・実践度等調査業務」（以降「前回調査」という。）と比較し、大きな変動はなかった。）

◇「I 食品ロスについて」－②

【手つかずの食品の廃棄】

あなたの世帯でよく捨ててしまう手つかず食品（未開封品）は何ですか

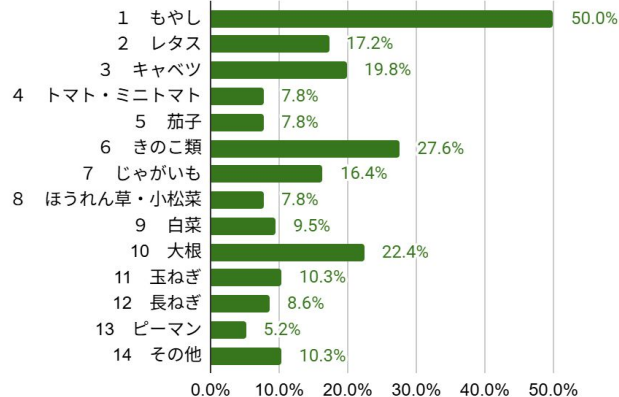


- ・上位が「野菜類 (13.7%)」「レトルト食品 (11.3%)」「調味料 (10.7%)」となり、品目としては前回と同様となった。
- ・前回調査と比較して「野菜類」の割合が約9%減、その他も減少傾向であり、「捨ててしまう手つかず食品はない」が約14%増 (前回：39.7%、今回：53.6%)

【手つかず「野菜類」の廃棄】※新規項目

どのような野菜類を手つかずでよく捨ててしまいますか

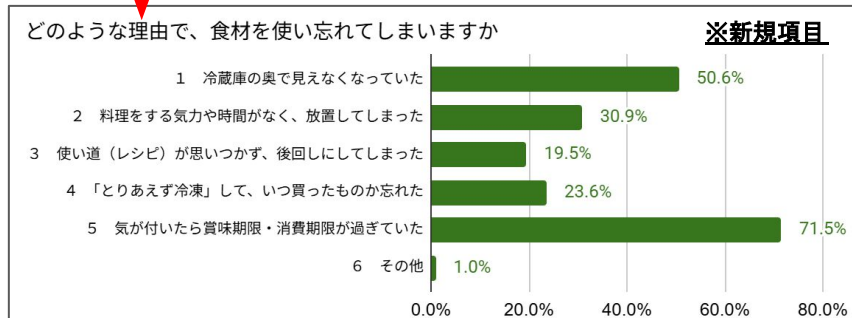
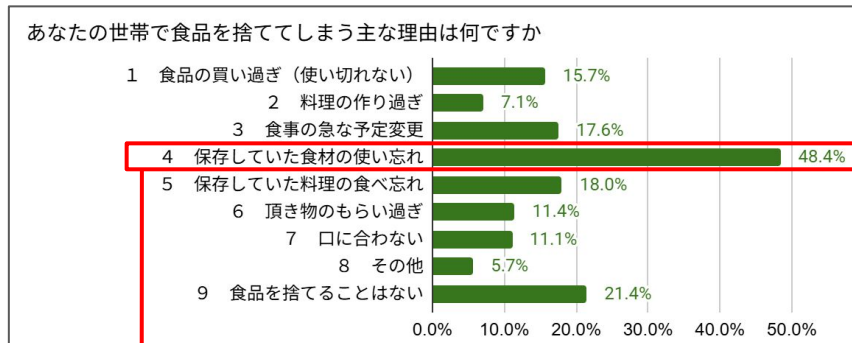
回答数: 116人



- ・「もやし (50%)」が圧倒的であり、大根などサイズの大きい野菜やきのこ類が上位となった。

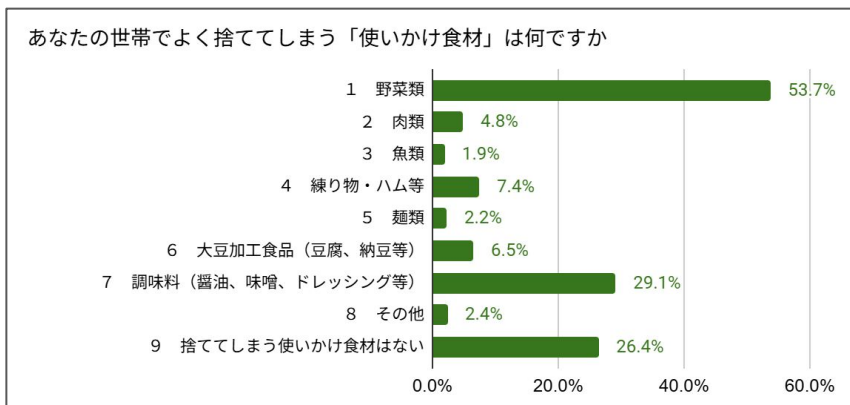
◇「Ⅰ 食品ロスについて」－③

【食品を捨ててしまう理由】



- ・ロスを出してしまう最大の理由は「保存していた食材の使い忘れ（48.4%）」となり、前回調査と同様の傾向となった。
- ・「使い忘れる理由」としては、「気が付いたら賞味期限が過ぎていた（71.5%）」「冷蔵庫の奥で見えなくなっていた（50.6%）」と、管理上の理由が上位となった。

【使いかけ食材の廃棄】※新規項目

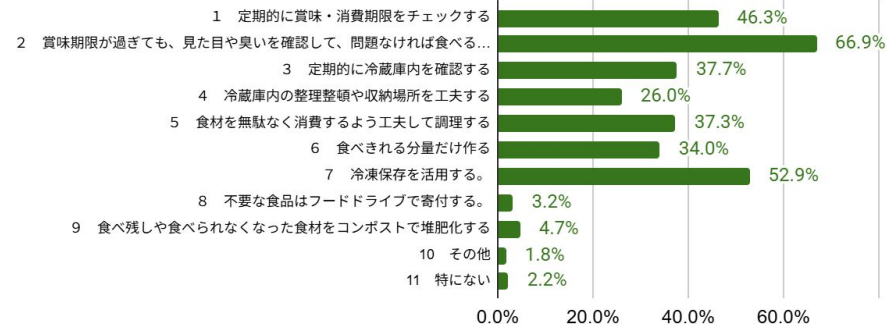


- ・「野菜類」が約53.7%と最も高く、次いで「調味料」が29.1%となった。

◇「Ⅰ 食品ロスについて」－④

【食品ロス削減に向けた家庭内での取組状況】

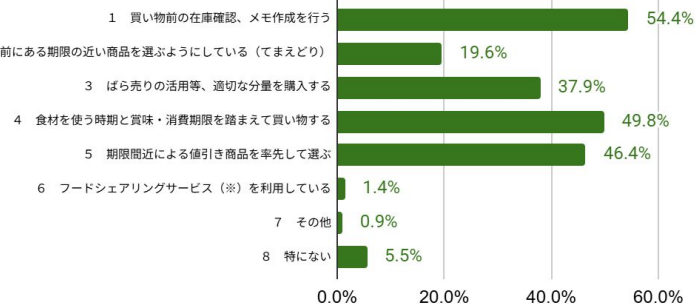
あなたが家庭内で日頃取り組んでいる食品ロス削減の取組は何ですか



- ・「賞味期限が過ぎても確認して食べる（66.9%）」「冷凍保存を活用（52.9%）」が上位となった。
- ・「特にない」が2.2%となり、ほとんどの人がいずれかの取組を実施している結果となった。

【買い物時の取組状況】

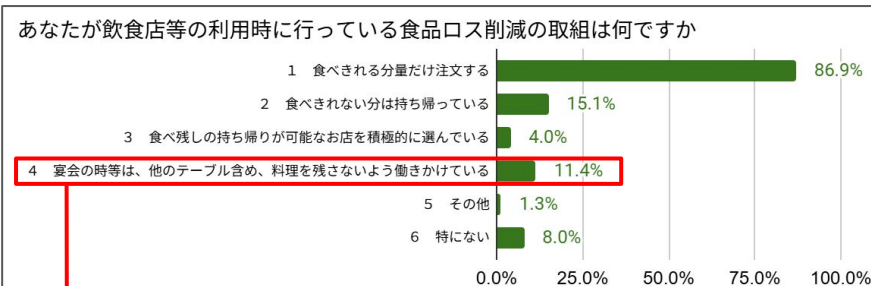
あなたが買い物の際に行っている食品ロス削減の取組は何ですか



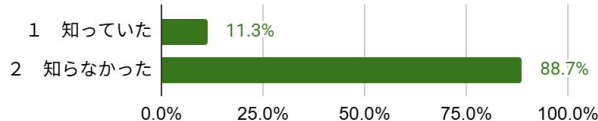
- ・前回調査と同様、「買い物前の在庫確認（54.4%）」「賞味・消費期限を踏まえた買い物（49.8%）」の割合が高い。
- ・一方「てまえどり」の取組率は19.6%、フードシェアリングサービスの利用は1.4%と比較的低い結果となった。

◇「Ⅰ 食品ロスについて」－⑤

【飲食店での取組状況】※新規項目

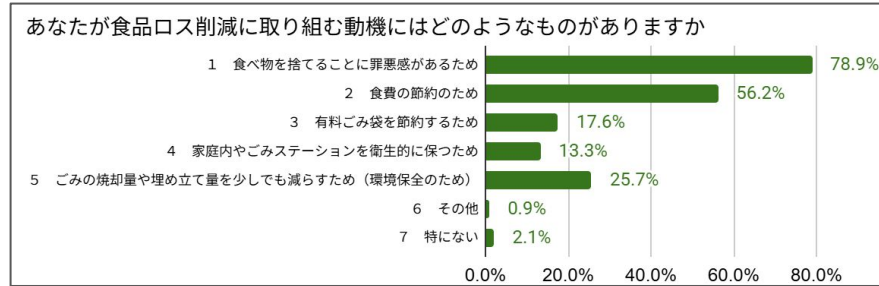


あなたは、札幌市の取組「2510スマイル宴」※を知っていますか。



- ・「食べきれる分だけ注文する」の割合が86.9%と高く、習慣として定着していると考えられる。
- ・宴会時の食べきりへの働きかけに取り組む人は1割程度であった。（そのうち、1割が”2510スマイル宴”を認識）

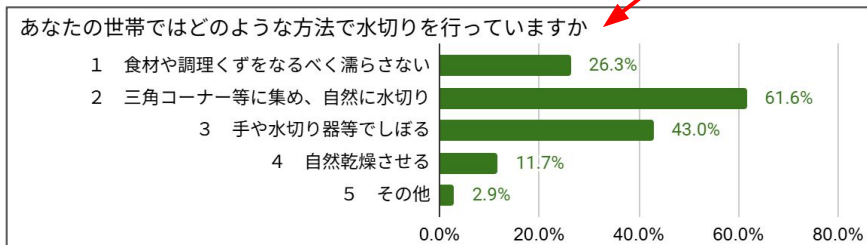
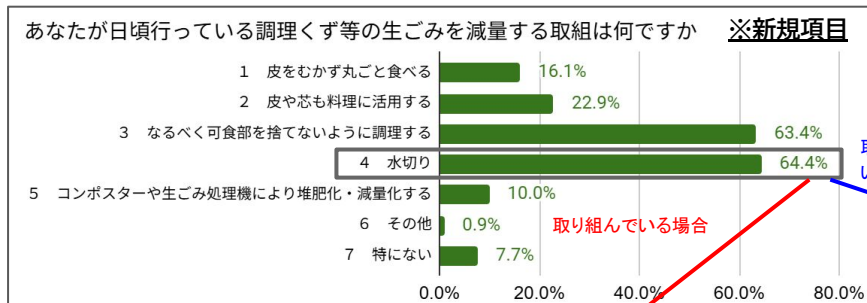
【食品ロス削減に取り組む動機】



- ・ロス削減に取り組む動機は「食べ物を捨てる罪悪感（78.9%）」「食費の節約（56.2%）」という心理面・経済面が多く挙げられた。

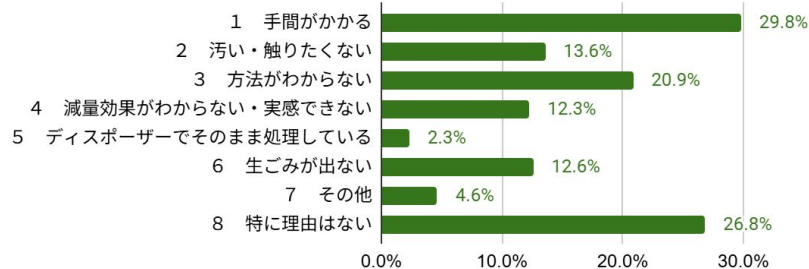
◇「Ⅱ 調理くずの減量・水切りについて」

【調理くず等生ごみの減量の取組状況】



【水切りを取り組んでいない理由】

現在、水切りに取り組んでいない理由は何ですか。



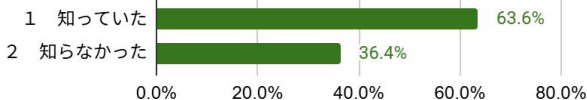
- ・「なるべく可食部を捨てないように調理する（63.4%）」「水切り（64.4%）」が主であった。
水切りの実施割合は前回調査より約8%減となった。
- ・「皮をむかず丸ごと食べる（16.1%）」「皮や芯も料理に活用する（22.9%）」と比較的低い割合となった。
- ・水切りの方法は、三角コーナー、手や水切り器でしぼるが上位で前回と同様の傾向であった。

- ・「手間がかかる（29.8%）」が最も高かったが、「方法が分からない」も20.9%と上位になった。

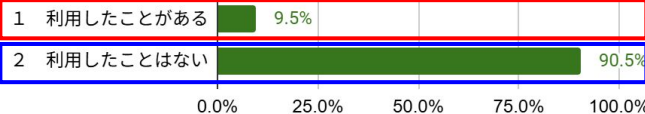
◇「Ⅲ フードドライブについて」※新規項目

【フードドライブの認知度と利用状況】

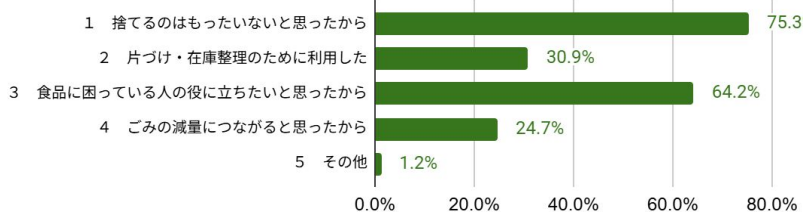
あなたは市内店舗等におけるフードドライブの実施を知っていましたか



あなたはフードドライブを利用し、食品等を寄付したことがありますか

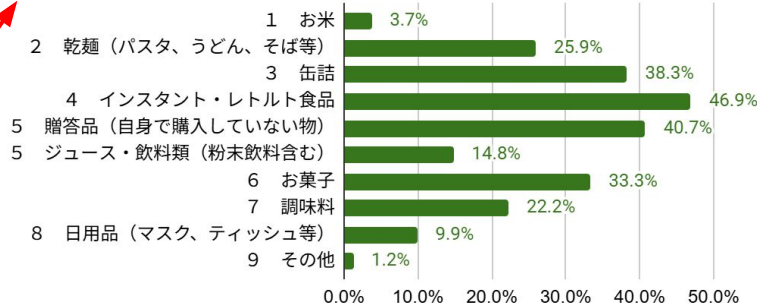


なぜフードドライブを利用しようと思いましたか。



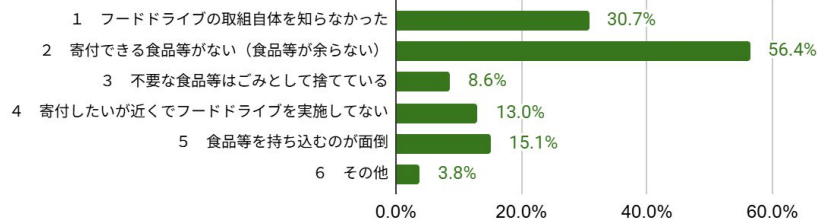
- ・フードドライブという取組自体を「知っていた」人は63.6%いるが、実際の「利用経験者」は全体の9.5%という結果になった。
- ・利用の動機は「捨てるのがもったいなく（75.3%）」「困っている人の役に立ちたい（64.2%）」という精神的なものが主であった。

どのようなものを寄付したことがありますか。



- ・寄付したことがある物としては、「インスタント・レトルト食品（46.9%）」、「贈答品（40.7%）」、「缶詰（38.3%）」が上位となった。

フードドライブを利用したことがない理由は何ですか。



- ・利用したことがない人の最大の理由は「寄付できる食品がない・余らない（56.2%）」であり、次いで「取組を知らなかった（30.8%）」となった。

◇「Ⅳ 生ごみ減量の施策について」－①

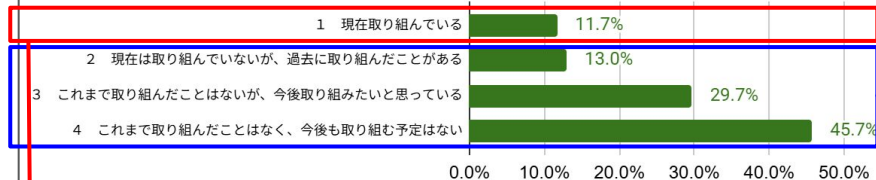
【生ごみ堆肥化の実施状況】

あなたは以下の堆肥化方法について、知っているものはありますか。

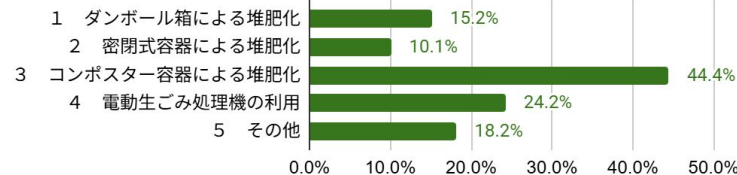


- ・生ごみの堆肥化
- ・電動生ごみ処理機による生ごみの乾燥、堆肥化

あなたの世帯では以下いずれかの方法で生ごみ減量に取り組んでいますか

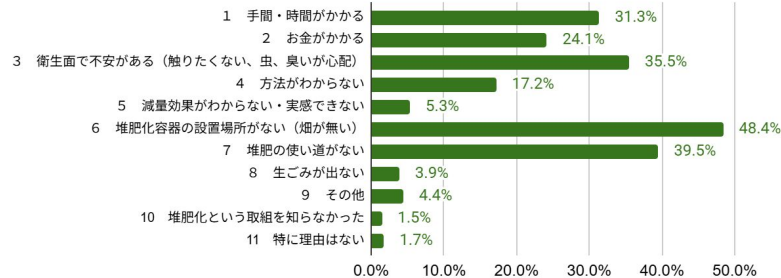


あなたの世帯ではどのような方法で生ごみ堆肥化・処理を行っていますか



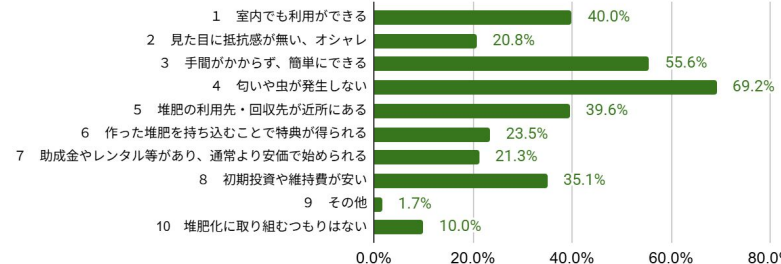
- ・堆肥化に「現在取り組んでいる世帯」は11.7%となった。
- ・「今後も取り組む予定はない」という層が前回調査と同様、半数程度と多数を占めている。

現在、堆肥化に取り組んでいない理由は何ですか。



どのような条件があれば自宅で堆肥化に取り組んでみたいと思いますか

※新規項目

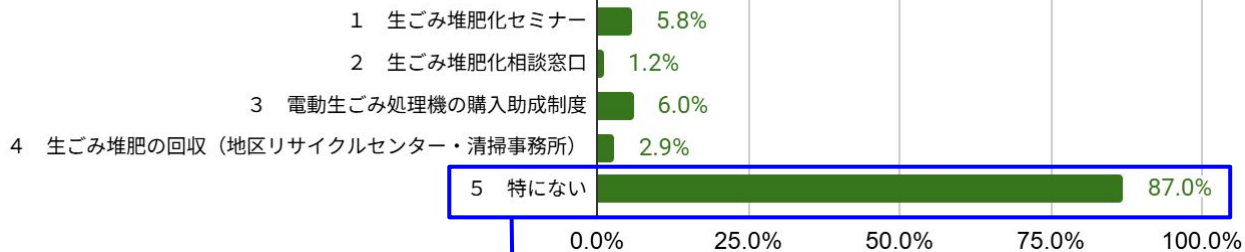


- ・堆肥化しない理由として、「堆肥化容器の設置場所がない（48.4%）」「堆肥の使い道がない（39.5%）」「衛生面の不安：虫・臭い（35.5%）」「手間・時間がかかる（31.3%）」が主であり、前回調査と同様の傾向となった。
- ・取り組むための条件としては、「匂いや虫が発生しない（69.2%）」「手間がかからず簡単（55.6%）」「室内でも利用ができる（40.0%）」「堆肥の利用先・回収先が近所にある（39.6%）」が上位であった。

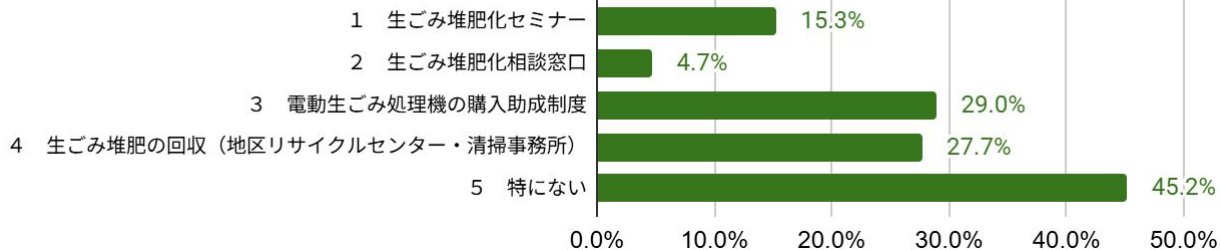
◇「Ⅳ 生ごみ減量の施策について」－②

【札幌市の生ごみ堆肥関連施策の利用率】

あなたは、以下の堆肥化に関する市の施策を利用したことがありますか



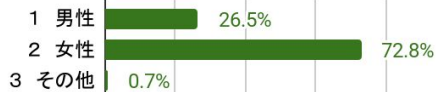
あなたが上記の施策の中で興味を持った取組はありますか。



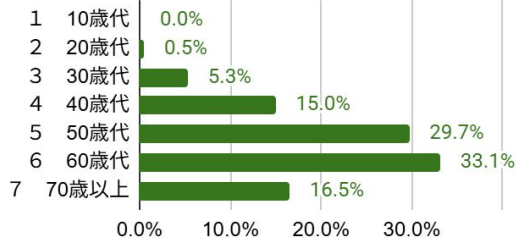
- ・質問した生ごみ堆肥関連の施策については、8割強の市民が未利用との結果となった。
- ・興味を持たれたものとしては、電動生ごみ処理機の購入助成と生ごみ堆肥の回収が上位となった。

◇V 回答者の属性

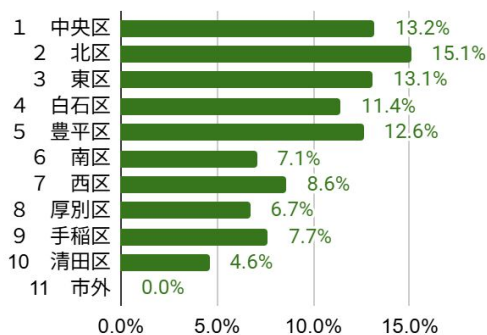
あなたの性別を教えてください



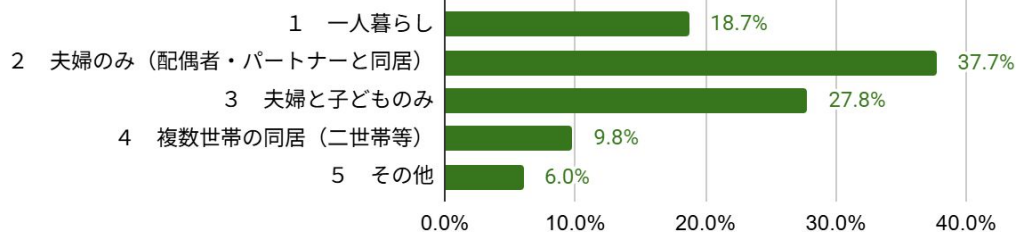
あなたの年齢を教えてください



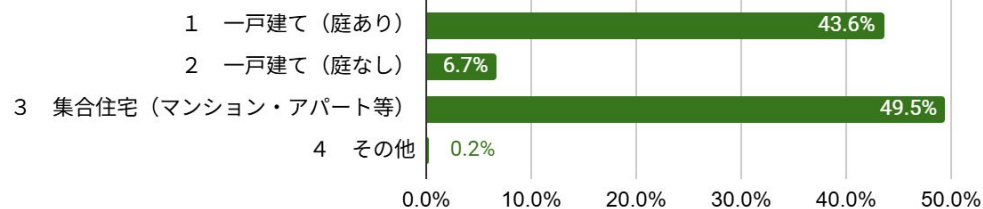
居住している区を教えてください



あなたの家族構成は次のどれに該当しますか



あなたのお住まいの住宅は次のどれに該当しますか



- ・回答者にうち、女性が約73%を占めていた。
- ・年齢層は50代・60代が全体の約6割以上を占め、70代以上（約24%）と合わせると回答者の大部分を家事経験の豊富な中高年層が占めていた。
- ・家族構成は「夫婦のみ」「夫婦と子どものみ」が多かったが、「一人暮らし」も約19%を占めていた。